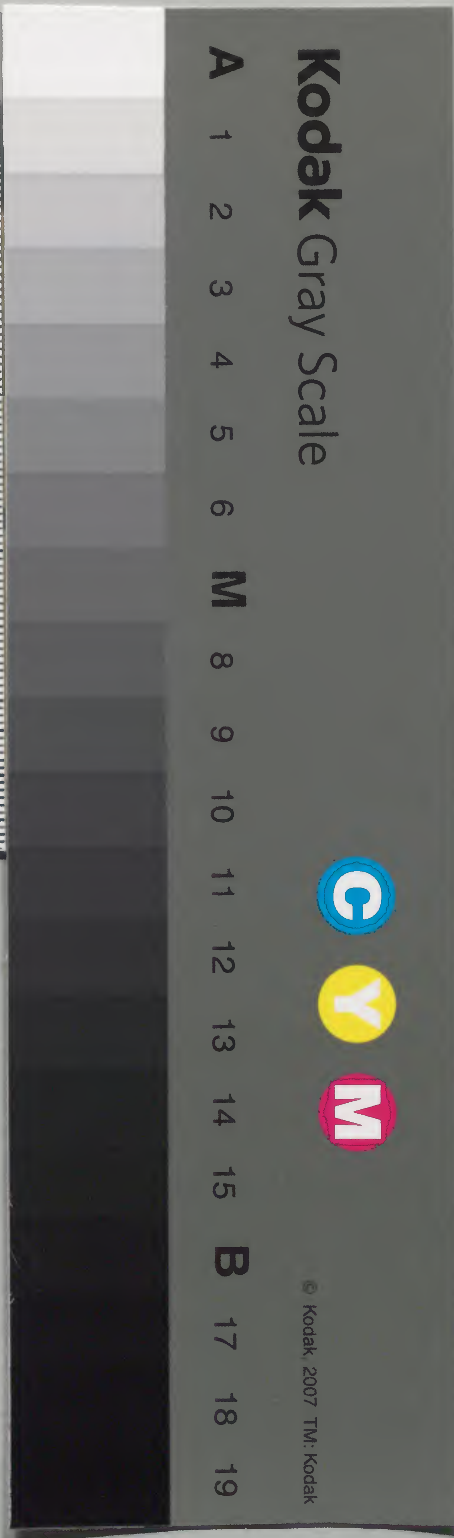


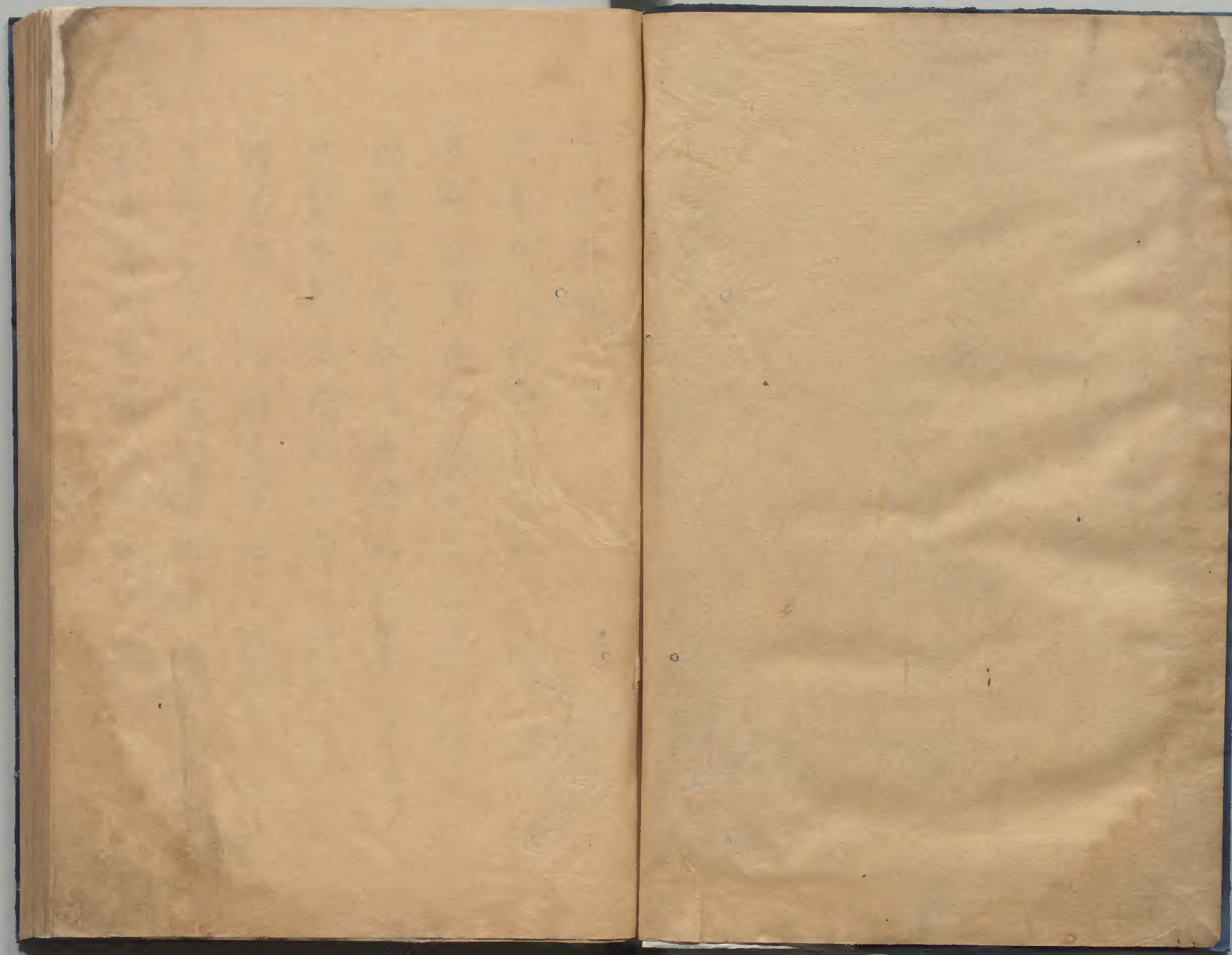


内閣文庫	
番號	和 43365
冊數	2 (1)
函號	201 348

201-348



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり



百詠和詩文庫

和學講義

又鄭國公始賦百詠之詩以諭于公

家張庭芳追述數千言之注以備于後

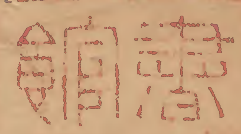
鑑是以少壯之昔學之閑居之今抄之

所謂四韻之間取二句一題之中綴兩

詩是也伏以詩者唐室之志詩者我朝

之風也予天性允拙雖隔碎金彫玉之

譽宿習斯深猶恥中動外形之詞窓裏



聚雪久術白氏奇七山邊翫霞專慕亦人
之蹤仍詠二百四十之哥成一十有二
之卷綴願衣成字之性何耐夜鶴思
子之志乎于時元久之初冬津朝議
夫大文源光行病中録之而已

とらふをりもさ地りともわさ唐
國のふ里の浪よりほさりりこもい
あまり一もしりうさうさうくふ
よりむりまればとまふらんうにみる
これ月 (あつこひさくあつこま
のふもつこひさくあつこまのわりの
あつこひさくあつこまのわりの
あつこひさくあつこまのわりの
あつこひさくあつこまのわりの

ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 とらうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 うらりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 十歳の昔此文と讀傳してヨシキ四旬の今
 心とらうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 いてぬくのねとぬきりしてフタヒヤクヨソク二百四十の
 ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり

ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 ちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
 このちやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり

百詠和歌第一

天象部

日 月 星 風 雲 煙 露
霧 雨 雪

日出杖束路 又言れ東碧海の
うらよいとありて百星の地よ林よ
その木の葉にれ常よ似たり又櫻の

本ありてと敷千ふ二ふ余田仙人
具菜のととらしてその神令色の
とら一とを飛つてより千歳よ一
なまるとしよふと実あつくはら
りい早く香一杖菜これあり日
陽音より出て杖菜ととらつて
にふんとらりあしや
若う戸六つふふよと出らるに

そらけり星のしをそわけり

傾心以葵藿 わあひまの日のけり

めらるあまのよんをこしけり根とく

よあつ朝よの東北夕よの西南よ葉

とあつちけりともりの根とあつんと

ふらあつちけりひの葉とあつちけ

て日にむらうらうとく人もあつち

傾てそらに向ひてまはつちあり

祓らりまひり報りよありひくさ
まのりあまのりまのりまのり

月 眞用二八時 竟の付世あこま
こびよるかみそ瑞草眞英庭よ
あひまうほりほいさうより一日に
いとりのむと用く十五日に十五れを
あまのりまのりまのりまのり

ほこりりいあてありんそねと一
小月まねく一のあまのりまのり
又云りまのりまのりまのりまのり
てまのりまのりまのりまのりまのり
つと眞のまのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのりまのり
用二八の時まてとまのりまのりまのり
又月うらりにまのりまのりまのり

あきしつふさうりあうとんり

ささきむつりふふれゆく月影の

くつりふふれゆく月影の

分暉^ツ度鵲鏡^ツ 月の一の名は破鏡^{ケイ}

とまえささきむつりふふれゆく月影の

るるり昔女あささ有るり世の乱

よわいふさなれとまかむ團(ゆ)と

鏡鏡とらうてふ鏡はとらうてか

ささきむつりふふれゆく月影の

ささきむつりふふれゆく月影の

ささきむつりふふれゆく月影の

ささきむつりふふれゆく月影の

ささきむつりふふれゆく月影の

かさきむつりふふれゆく月影の鄭

の人曹文とんり

あきしつふさうりあうとんり

あひらる月の後さうせり

星 蜀郡靈樞^カ轉^ス 天河うこと一に

ふられ者海ほよよむ人あり年と
うさ月ようよよにのりてゆき海の
と期をたんとさの人ののてま
らそうよよにのりてさるぬうひ
出て日れれ夜のあらうもああよよ

己ぬ遠よちて一のあよらうぬう
らよ屋舎ありかくをまれん何さ
うらよ織女いよりのうしいたわね
とこありらにのりれの所を也同よ
ぬうりて蜀郡の叢君年にとんと
養てよ棟石をわうよそよとゆて
己ぬ志年にとよ君年ういんく具
年のその月の具日客。星牛斗

とらふのきりすけのついでに
そねのきりすけのついでに

えふふくくをわたりまうあすの河
くまのうらまはりのあひら

今宵 穎河曲 誰識 聚賢人

後漢書曰陳仲弓子姪と云 夜

荀季知と云とよひくふ子穎河人

多ういふ天小徳星わのまう大史

奏して尸とくさるる中賢人わのま

終らとらうと尸せり陳寔のうらま

と仲らうといふ荀滌の孝と孝和と

いふて早のをらうとあひら

ともいふまはらうのま

風 ちせうるる風とけり張陽の

よとて風とありせぬとまの守り

風一ふいふく是風松とてうこりふ
すとりり

松身入夜琴 琴有風入松曲也云

ふん風松とてふて作を似鳴琴也

うねりい川ふとれ福よかき入

凡そ松のしるるるすれ

若至蘭堂下 還拂楚玉襟

采玉風賦云 楚襄王遊於蘭臺

宮有風颯然而至乃振襟而當之也

心ありやゆふの緒をふりかたに

くまのうてまをくまゆり風

雲 烟焜百年樹 烟焜はくもの色也

海陽殿れ葉よふり檀樹あり

一の石を百年樹とてりり

竹すあいにし弁んるのよふりか

桜にも葉はなしより川の色の

掩映ス三秋秋月 通玄真經云日月

あにうらるるとすれとるうへ

雲蔽スとつり三秋の一月と一秋

とす二月の三秋あり

ぐれぬよのえとありとふぶものや

ららると月のたからるつり

煙 瑞氣凌丹閣 慶喜したまひく

と煙のしとくして志もさうり

にわらうす次郁々紛々うり則瑞

氣とつり

あかぬうさうりよ似るうす雲や

くのうらみれんれよさうり

松篁暗暉シ 松篁よゆりこれ煙

とるせり

たゞのねれきうらうきり

露 夜驚千年鶴 家れ草のこふ

かはれんふ年の病とききてし

八月家病ありよのそきて病こ

あそを所としり

秋の夜いふくまきしれあらる

こころの家より紙ありし心

朝晞八月風 孟秋涼風至則白

露降 又云後漢桓帝時せよる

あまゆはりともりりり永康元

年秋八月云より母病くせり

又云進乃人のゆへれ家こえや

よふゆふあぢきひてきくにあ

人死て一夜去そのこころれりけり

かつんとすつとせり

家の月れ草のりかりよあらくる戸の
うせかりすつとせつとせよわいみり

霧 漢帝出平城 漢高祖韓信と

うらむる韓信ういくはのうて高
祖と本城よかこめるときまよりせ
音雨音くうて世の中れううせ

高祖陳平くえうるとに随ていま
きねよにけのうれ行り又陰
陽えとれてうると候とえり

旅人れきうにゆふひみらしりも
わりあひといのふれまるうりり

別有丹山霧 丹山丹穴也雲霧
りかり 又云又晴て丹山の峯上候
よきうとせりて燈のよき一えは二日

とよへんも雨あらしり
たれかみしひしれあのみ霧
けさしの霧のさかしーと

雨 世の中さまじうと十日に雨一
ふらふらその雨つらけれと
らふとらふ

靈童出海見 ヒラウイ 昔馮説八月庚子の

日河よりて水とあひとそかあは
いそ河泊神とありぬその形
八尾八ありて黄青の色く白鳥
高て十二の童子とささる水の
ととんちあふ雨とあせり
川名いよへいぬうらむぶと
あらしあらしとさされれ

神女向山廻 昔楚王高唐よめ

そして初らまところへ行つたまれり
地よ女さうりて思ふ高唐よ何さ
とさうしれとさうりひりろを一り
せんと秘ん此よあがり玉わい行ね
女海けよらそて曰、妾、巫山れ陽高
丘の^想思あり初よ^ことさうり又い
雨さありて初く暮くよ陽臺れ
とにま^うてんとてまぬ後よんよ

初よきたる川夕よ雨れり
ささあり雨とたなりさうあまそ
ありてさうり一やせんのかさる星

雪 瑞雪警千里 一たんよさうり
君年乃瑞とわいりよとさうり
君さうりありよのあつとまそ
らさうりげよとさうり

大周天國の 今日海神朝スレ

周の武王殷討とらんて行へ
形は初よその天くまを言われ
る事十余日高と一ふ五人はふ
ありぬとまよひはくの車うまりの
るれり門のふよまの竹てま王と
たまげて討とらんとりひてま
ぬ車馬の流る海神の天れはと

してまれぬまうまうはわよう川
事をぬく

ゆるしとまひ一音のまうつあを
あふまうまうまうまうまう

百詠和歌第二

坪儀部

山石原野田道海

江河洛

山 白壁丹青色 右壁よりいさう

苔文款ありといさう山水の景色を

壁の繪よりけりあり章考標詠云

雨滴膠山断風吹消暮秋也

あさきまの梢はさきさきうらうら

あつのはれをきこふまはるせぬ

已開封禪處 希謁聖明君

花出ハ黄河の東は對り首陽山

ハ神靈のまじくあてよれ紅花山にあ

る。されあを首山よまいまいのこれ

初花山已開來請聖封禪あり

花の心よこし峯のあをありて

まのこゆるさよいはりありて

石 巖花鏡裏姦 武都大文化一

てまはるのあをありまはるせぬ

世は橋はさうまはる冒王のこいさ

とありぬ是後いさかきよて

命終りまはる武都山の上いさあり

てこゝろよる石れ後をうけきり後
の中よりかろ花うけりとり
石中菽シキ范發

ひしうしひあひいひきり後やま
いそひのなまれかけんあつして
入米星初墮ツク 早地よあらしり

若水のいへいもくむらりり
あまの河原れりりのいろと

原 江淹ツク起恨年 江淹り恨り賦云
平原よ人れりり喜草は福は海
は了か松本たまわさかさい民生
らにりりり天道らに瑞せんわ
僕ととより恨きりり心影とと
るまるといふのんれ恨よあしてた

あゝをかりよ 又まぢにそにさる
てめうひらきとらとさう

あゝをかりよ 又まぢにそにさる

くれゆとにうらとけりあや

長在トキヲ鵲ト鶺鴒ト 鶺鴒ト水鳥トかか

ささすめりうらとけりあや

うら色きくさい色うら後の色白

てらひのよも黒しひあま桂陽の人

ふはひて運法と云りこの鳥水を

ふはひて運法と云りこの鳥水を

てらひのよも黒しひあま桂陽の人

鶺鴒ト水鳥トかか

あゝをかりよ 又まぢにそにさる

野 鶺鴒飛楚寒空 鶺鴒尾楚分野也

鶺鴒翼宿并彰宿あまぢりこさ

鶉ハ己ノ神ヨカト云リ

ラレバこの名このを何と鶉と云
うところありて歸過此又言

獨在傳巖中 殷武帝信よつた

て後三年まつりといふ事受れ申

ふ傳説と云ふこめてその形をうけし

たもとむりに傳巖の歸して均

なり武帝まつりといふ事傳巖を

海を流らんよみはを舟りとせんを

やういふ武丁の言ふ事

美ゆらうゆらうよららと色なり

さしうけはくにみうと歸く花

曰 菖菜布、龍鱗、 菖蒲乃むれ志

なる色跡の鱗よ似らうこれ美

のありは田と云うと云う

カマシラれよとれあやめあひよらり
鳥羽田のさあ入今ややせらん
あふの穂新やせれよらりよとす
かすのときあひらとに九穂あり
とさう又あふ穀く春二月熟つと
大卒の付九穀くと合穂とさう
さのあうら田の早苗ひと草に
いしくさよふ今物れあさ地を

道 玉開塵似雪 玉開れ地よ塵沙

あかくありと雪に似たり

さしの戸と雪にさうむとみらさる
あよあうり地さうあさりさう

今日中衛士 堯得更可逢ス

堯の付さ下と地ありいけにあつ
人これしりさうさう所あ

こけあよ竟れさらさらまに得
ほとよけりうと一ゆいよ
くるもの各くしてゆりとし

こけの戸とさうてらくはさうあらん
さうわりの代よけりうとれよ

海 万里大鵬飛 ホウ 北海よ大奥有 コ

とさう具せさうの産ふゆゆ樂り百里

とさうとさうとい莫化して鳥と

ふけり若て大鵬とさう六月の産いこうこ

紀し面に向一を昔よ九百里いもろとさう

越の海えとふりといわがさうれ

ふけりうとさうを庭にんしきれ

珠含明月暉 海中よあがきさる

蚌蛤ありさうよ明珠ありはとなよ

虧盈月 カケミツ 此望よいさういさうあり月れ

ほこもろよのさうじや 明日れ珠
これより蚌蛤珠とらり

この月のふとむいさうよみー珠
あやうさうに有明の光

江 霞津錦浪動 成都の西城ハ

と由、綿官と一ろさうこれうらの
ののさうれまも綿と洗よ氷清く

一と色ちまわらうあま錦皇城
とらりよののうれあよこの色
ほこれよいさうとらり

うすしーくさう海のまをさそとれ
ふみのらふとららふさくぬ

濤如白鳥来 但子骨志はてらる

くぬよまらふれぬ長霊氷祐とる
よそ白馬のうてたうとらり

新収のうらうらうらなけれらまの石
とつらうらとれまの西乳

河 河出混論中 崑崙山南の
九弁わりの皆玉の河の水を寅の
角より出て國の東と西とれ
て龍門を過るうらうらなけれら
つと崑崙山よりわりの水

ふにぞうしせぬ玉川のあり

徳水千年愛 黄河の一の石を
九曲とりよ一の石を盛津と云ふ
の文云の付黒竜終南山より出て
水と終てなる黄河とありとて
水と云ふ黄河の水をいこれる
一石の

返とらるよして三千年より一
すめりんしめすもんじよる水
五色は愛し又西人あつとき
この水よむとさう
水のしりぞかまわぬる水は
ゆるとよんさくやう

浴 元禮期^ス仙客^ツ 後漢の孝翁^ス

字ハ元礼とシテ郭林宗^ス海陽^スよき
えりあそふ元礼^ス福人^スしう^スあつ
いひつひてとる文法とさす後
瑯里^スの歸とよ元礼と林宗とひと
つあひよりて何とよはる^ス法の
儒士衣冠とさすしして是と
送る人神仙とよとほりさう

陳王觀^ス廉人^ス 魏武帝弟三子曹^ス

植^千込神賊云我京城より東蕃小
御のちらりいんかろ造よひちりの
衆人とちらり者としとてとらり
じつよ河海の神を祀とせり
きとらりよ髻鬘をりりかろふ
ちと月と照り如し飄飄ふりり
ちと海風の音をりりりりりり
遠くちとちと日と光の海の底の
をりりりりりりりりりりりり
色とちとちとの辰よりいはずりり
—あるとちと清流よたつれあ
はけに神備ふりりりりりりり
ちりあつとちと相輝とちとちと
とちとちと

あまのめのかみこれそよあつれね
見よちとちとちとちとちと

百詠和歌第三

苔草部

蘭 菊 竹 藤 萱 萍

菱 菝たぐ 芽 荷

蘭 虚室重ナ招ナ尋 易日ナ心ナあはし

くナより人蘭ナうナえナくナあナうナ

きナうナらナうナ

うらなを海をりうま家のるおきて
いくらさうせぬまのいさるん

雪、^{いし} 楚王琴 米玉じー遠く

あふふてとと^んうふは^んじまつ

れて人のあよま入れりあろーのまに

とろく米玉と堂よますんととす

ねたたく堂下ますんととすれい

ていさうのあふ蘭をまつり

ていさうのあふ蘭をまつり

とろく米玉これいふて

幽蘭白君の曲とろすよ人皆

とろく米玉と堂よますんととす

まのりかよまとろくー^んぞれまの

るころふふりいあうとろくまの

菊 金精九日開、 菊の花の色黄

秋菊よ金菊と云り又秋はけし
かこころあは金と菊は九月九日よ
花開くころさけようくと云り

うづ月のさしあはれと思ひし終
らうとよれぬのまをけし

^ス羅森寒潭側 羅森は海にみれ
秋く南陽の菊潭ありい水と取て
ほこれれと思ひ丹してふくえい

とよさす相廣く南陽の菊水と取
て余と一斗余と云り

白菊のそこふりうよ色とれん
あつえをとりて落家若水

竹 蕭條含暗氣 吳都賦云竹は
則緑の葉は青くく紀ありあつと
さしきとさし檀葉とゆきに

蟬蛸セウコとたゞをやりあり梢を無踰カク嶺カク
谷并能連ハナニ

君のれのみよいらそのみたりよて

多つい秋あり竹のしとくう

誰知湘水上シヨウ 流溪獨思君シヨウ

堯の二人れしじの娥皇女莫ハ舜の

女あり舜かくれ行て後二人の人

湘水ほとりよ哀哭後と成ること

雨のしとく流竹よ瀑さして竹理よ

るるぬるしひよたしとてと

りよ湘水よあわれてたぬけあふ

あうりと湘又人とりり

らぬるよひぬる神といふ所や

竹の末葉もあうらあうりけれ

藤 神農カミヌ 掌カミ 藥カミ 罷カミ 永陽縣よ有石

室^ノ為^ニ神農窟々^ト前有^リ異勝朝紫日

中^{申時}緑^時晡^時黃^時春^時青^時夜^時赤^時五色也

神農氏勝とありて良菜とあり

子^ノ命^ヲ取^リと名^ヲ付^ケ者^ハ南^ノ郡^ノ仲^ノ恭^ノ

母^ノ病^ニ泥^リり^シよ^入て^テ菜^ヲを^求い^ヒて

其^ノの^をと^りて^テわ^りり^テ弱^クの^をい^はし^メて

あ^らま^りと^本末^ノよ^りあ^らま^りの^をわ^りり^テ名^ヲを^取り

と^りり^テこれ^をい^はし^メる^にり^り母^ノ

病^ヲたり^とし^りに^いは^しる^にと^云て^のま^はり

ま^はり^とや^りに^いは^しる^に仲^ノ恭^ノこれ^をい^はし^メる^に

て^母よ^りわ^りり^てま^はり^りり^り病^ノ刻^ハい

つ^ぬり^余の^年今^にに^わり^りり^りり^り

この^人名^をと^りて^良菜^とと^りり

あ^らま^りの^いは^しる^にり^り老^ハい^はり

ま^はり^のた^のま^はり^にい^はし^メる^にり^り

花^分竹^葉益^ッ 西^ノ域^ノ勝^ノの^意あり

あがささ人のまよにさう業着
に似る花とみといさりよにさう様
極の又さそとさよはれり芳一
てえいとひと昔張審大宛よ行て
そとゆさうまう人ゆとりて各
のまといとてさうさうてえいと
と田と又跡人あうむとゆよはれ
や又さうさう行業のゆとゆ
かすこらむまの秋のいあすて
ソウぶ友のくまのさうま

萱スミカタ 忘憂自結菵ヲ 萱草の一の名

丹棘オヨク 丹棘とありて人憂と
より忘憂草はさうりエ 瀰列よせた
其名と業は萱草のさうり

蹄邊のまよ秋のくもさすれまよ

しつらうしつらうとときげと母
香傳少女風 菅浴日ころのと
き後河をいそぐふ雨下つ
樹らよ少女の風ありと云ふら
ありてらうとてぬらわたり西方
と少女とよめる風吹てぬらぬ
萱子の音い風よかりあり
玉津風とて女の袖をそりてたり
歸京のくれのうとそらびとて

萍

二月廿初見

三清ハク躰正キ浮

うさまにぬまありあかさるうと
顔と云きとむ神よたむくま
風蕨の末よあかふかありと萍と
しりね三月の節の後十一日に初て
るして十六日下萍初てせ十月申の

日よめかろとさうぢり初て
足ゆつとと萍生出とらう二月の
まあかつるゝ二月とらひの遊下
三字又三月の推初て五月の稍同
也とらり又云之清いさけり色又
云は蝶うささうとらひ初てと
ゆつとと萍あつと云う

まのしるれさうひくえさ知ふかに
をうとらひとら他のうと草

蘋随旅客遊 萍の南北より終

けり中旅人の浪よほつとらと云り
惟もわくまの浪ゆよと草や
ささみ水何くくろくうれぬへ

菱 東平春通 幽明録曰春秋

さけて後菱始てしとらひ首東平郡

うららに氷れぢよひーとら女あり
身よららの葉ときらり呂氷是を
見てもよら〜と鬼のたらひありと
とり女日子不同荷衣蕙茅帯て息
よあん化して為楸而去又
らそとるくわあり多りひーとらー
いもろぞろ〜これ地うららぬを

潭花發鏡中。うららの色後よぬ

よ長よひーの花を移さるあり
ひあよひーのむ後申よ用くとさう
むーうほろ後わら〜と人とほ
う紀ぬの地れんをささん

瓜 欲識東陵味 青門五色衣

秦東陵侯邵平くよあられて布衣
うへ〜とるとのうれて後長衣成

の東門のかたりは夜とつれりうわ
ひまわり味いけし編れりよいさ
又遼東盧江燿煌のそよひ熟いで
あかこちるゆめ解きうらめど斗又
蜀郡は○よたつさつあつあつ冬に
あわり又まのたあまはひまきほり
法候のたあまはあつあつと云り
門田はいほのりつと云らると母

ら路のそよひはあつあつと云

龍蹄遠珠履 夜よらまはれらる

女臂花羊角花蹄花と云り夜田

と履をとらんとりりあつと云

とらんとすれは夜とらんと

よりのあつと云

旅人のくわれ通いりらつと云

とぬれとらつと云あつと云

芽 堯帝成茨罷 帝啓子堯位也よは

こ給て後人れ貴と号て殿舎を修

つりぬよ芽莖くもさうくををと

ろとよけけくも後ふ物うありー

つらも世とあさめ給るの十八年命

百半歳あてかかれ給ひぬ

あうよのよせいとこれとあうてんハ

あうーろつふ草のりかぬ

殷湯イニカウ祭雨カニ旋 殷湯の代よの年の

日ころありて世中うせるとすすと

ふに殷湯政のよととぬちうゆよえ

れちちめあふるととさうりて秋ハ

命とさういひてち下あさまうと下

とさうらんちとあて業林の下は

て白芽とまらひてちとといけにえめて

雨とまつりにはあかきようけり
牲
とく白芽してはくじぬ

は、第^レやめはくじぬし雨のよと
あきこもりしそうりくめられ

荷 莫^テ戲^ラ排^ラ細^ク葉^シ 詩云莫^テ戲^ラ新^ク荷

うらくとまり細葉はあき葉なり
風うてあきよる比の荷なり

うと葉なりあきよるこころし

亀浮見^ス緑池 千歳^ノ亀^ノ荷^ノ葉

のらよ花とまり又亀じまれて
三百歳そのあかきと後のと

荷の葉のよあつとまり

荷葉のみとまり池よよむぬれ

あけよふとあけはくじぬなり

百詠和歌第四

嘉樹部

- 松 桂 槐 柳 桐 杞 李
- 梨 梅 橘

松 鶴 栖 君子 樹 杉 之 思 子 に

た ち 衆 木 と して 凡 人 小 人 と 年

を くら して 凡 人 小 人 未 だ 書 け ば 年

れて皆枯落時松獨緑也げぬにそ
とよ又ふ歳の爲松樹よすむと云り
又志子樹ありその美松よ無くうとも
そり又昔某内郡のさるる石の家
あり後よ一つの松の十ぶるうらこ
の家よ妻又ありうらぬる母と
つて化して爲とありぬる爲一つい
はのあよ梅と柳とをさるうらと云り
口と〜むらさきのハの代り老ふまで
いふよくらせぬ松の地と云りそ
風拂大丈校 泰の始を泰山よ
以幸〜路道よ傲よ風ぬよわひ
て松の下陰よ家と爲と云り
後つりけぬよ此の松樹よ位と授
きて又又又樹と云り
うらぬ日ハふる〜みとりの松う樹よ

雨の免くこの昔れ一か

桂 花満自然秋 泰山のどにかは

らの林あり秋とむふ事とに

花白く盛るり

風くありまれにありいとほつて

かほくのさとの秋のあすつに

仙人葉作ツ船ハ 仙人かほくの葉れ

船よれれり黄帝見浮葉の為船く

かほく河も葉の舟よさかき

あまのささりいんかろしり風

槐 暮律移寒火ツ 冬い槐禮乃火と

とれり又槐樹の火難諸之嫌と

るれり又十月上巳日槐子と取て服

人長ととゆとりり

うつと史とありて君丁も諸や〜縁
君に〜りつひ志はのつ〜めい

鴻儒訪道來 槐市ハ學館名也

月との報をとし〜り〜とに色

ろ〜の儒士愧下ハ来たり集

て瑞後を〜り〜市とをせり

花よ〜きゆひのみり〜り〜きふなむれや

木のよ〜く〜ゆの〜りともふふよと

穠際菜如雲 柳の花白く〜て

柳 君に〜り〜りと〜り

いと〜は〜り〜はよの〜りし秋あ〜と

み〜りよ〜り〜りの〜れ柳を

夜星浮龍影 大八宿の申は柳

星あり〜この早〜よみよ〜る柳

の葉終の〜りよ〜り〜りと〜り

けうらうらまの河原のを白柳
きよるるよりまれしうり

桐 狐ヒツリ秀ヒツリ澤陽峯 澤陽山れ相と

あておろ恐よほくるよと音縁
ねりときり

あくや海の高根の相よのうらあり
あけしむ社の風れしうり

秋葉弄アキハナ瑤ユウ陸リク 周成王戯て桐の

葉とさうて玉そとちて練鷹り
たつちありけ人元よ無戯言し
ねり竜門山よ桐あり道さうし
しそくよちれしうりねぬ品秋

の月の照のさありとしり

家のそめ風れさうふしもさ比ん
そよくも玉のちくぶありり

枕

葦露テ似啼タル粧

梁孫真妻殊壽トク

この散くよ緒さうよそ愁つる眉啼
粧とりつらうもせうらうをこころとぬ
とこすとりつらう中一枕花の香よ
ぬれよる吾人らるるよそあひよ似
らうよんて枕花の滴とのしよ百病
と除ふてふかの色老ありと云り

胡ウ寄のくれふ井いかりむのりか

こりりりりりともさうさうりけり

仙人海漸長 晋シニ大康のり武

陵の人真とらうよ若れ流をりよ道

と失て枕林のさうさうさうりけり

わらぬ百朱のりよコトさうらふら

若花鮮美しそ落英續給らう

和らふらうさうさうさうりけり

しよあささるらあう舟を控てあ
ゆきほよ人のあわう回さしあわう
東竹さゆくううあわう鶴犬わう
かき女阿まさあわうツリヒト人ま同よ
答て云く秦の時の人て世の乱を道
てらにいもてよりよの人通よ事
りしと云り枕原これらう秦二世
帝三年乱うと晋武帝大康十
年よる色五百八十七歳し

水どや浪海の花よこがさす色
こうらよよむのあう一膳人

李 花明玉井春 玉井のかとり

よ枕のあわうまのあれさうい
すまのあさよ根倫じよ玉れまら
長実思して先のやう玉のいあ

らよ内和るよるれりと言ふ

まうせにまをよる花のちりくちり

いすふまにみ玉の井の水

持用表真人^ナ 老子^ナ上世の真人

李氏^ナの楚^ナ国懸^ナ属^ナ珥^ナの人なり流

星とんて心とらりこりめて

娘てらりり服のゆめて八十一

氣とらり^ナ周の定王三年し卯二月

十五日卯時よ李樹の下に^ナて右乃

編より生るるよよく地より李樹

とらりて我性とせよと若し^ナり

好よ李を志と名つくそと嬰児

といふんとすれり昂^ナ年改ハヤ也

是と老父といふんとすれり^ナ新よ生

らりこの好よ志子と云重年と名つ

くありよ伯陽^ナ志林とらり^ナはり

けりて簡王十三年周れおとろく
ふりいのそそき牛よのりてあよ
越てふりぬ迦葉佛のゆきと云
りよしてむ子りせよ出まふり九
夏ハ中氣と云り黃帝の附ハ天乞と
りハ帝堯の附ハ四糸后れ其一和
練と云り周の世教王の附ハ伯陽
と云り吳國のそハ季礼と云越日句
越よつてハ范蠡と云奔のまつて
ハ景公の后晏平仲と云り漢れ世
高祖のけりめハ蕭荷と云り文帝
のけりハ河上公と云武帝れ附ハ東
方朔と云り又況云伏羲時号鬱苑子
神農時号稼子祝融時号廣壽子軒
轅時号廣成子顓頊時号赤精子帝
嚳時号綠園子堯時号裕成子舜時

号
野 伊 壽 島 時 号 寧 有 真 子 湯 時 号 錫

則 子 又 經 文 王 武 王 為 十 二 帝 師

こゝろをひらけ花のよまはひやそらりて
かよふんよこころあひまらりきり

梨 秋 来 葉 早 紅 ちの葉は秋と

まらせくれなふし 詩云 梨の紅は

白 晚 下 たり

伊 守 乃 乃 わ い く 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
か くれなふし 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

還 真 識 張 公 後 漢 乃 老 武 帝 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

いとま有あよ御門あまくしきり

福 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

そくひもすし乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

梅 院樹斂寒光^ッ 梅花得早芳^ミ

よる川の花れ中よ梅のそれハ年
のうら言れ底よりうら紀始るあま
いとらんやくのりーとらう
言らしてめくむ柳とわらねと
まらわらうの梅のそらつ花

若能長止渴 魏乃武帝軍の道

対ふくして士を定むるやうて

この申うハまより武泰の詞よ云うこ
こきよ梅来あうあかくみとむと
いて其味是よりしてらんをむむ
一とねらうこの何え人にはあま
口此申うねらうとねらう
後乃そらあめいのあまうとあま
よあま梅津のそらよとくしう

橘

千株布葉繁

李衡江陵よ千

株の葉^葉橘より多り李衡よりり小

らしてありよ云々これ十戸の奴よりて

橘と植て年ごとに箱一せとがなり

て是れ千頭本奴と号せんと云り

ふもとをよめてありいと記よりきえれの

よりひい家の風よれこわり

お蔭合霜敷 花橘をよこたぬれ

いれ一りりしとびんよおと合り

よ無きりと云り

吹向よあまよりあやと地えれの

んまらり雲の危りあまのり

百詠和歌第五

靈禽部

鳳 鸚 鳥 鵲 鷹 鳥
鸞 鳩 鶯 雀

鳳 有鳥自丹穴 其名曰鳳凰

丹心丹穴ありかきり鶴のこゝろ
ありと風とらひありと風とらふ

又鷹といふ風はくく響ひ善し
といふ下あさまはくはよこの
鳥出とさり黃帝れ付り竟れ付出
周の始より又鳳凰れかろく付
法の鳥丹心よりあけりあてくる
〜と〜といふ

鳳凰の録々のねもあ〜とあま
い〜とよ〜とあ〜といは〜ん

凡巳應靈瑞 九凡一は定命二
二合度三二耳聾四二屈甲五二色
軟六二冠距七二趾鈕八二音教九
二肢る文るり 又鳳の形ハ麟の
まへ麻の〜と地の頸其の危鷹
鸞細文鳥の背龍脊鸞鶴鷄の
喙は〜と〜といふ

うらぶら〜といふあまよよむ鳥の

ふゆのふゆのふゆと山色りい

鶴 翱翔一百里 鶯雀も鳴鶴よ

つとむる百里とふゆとさうり

野原新つとめとるふゆのふゆいん

と井のふゆ思ふとさうりいん

来去笑^カ千年^ツ 遠東城門よ白と

ふゆとふゆわつとさうりいん

こよふよふとさうりいん

んく十念威家とさうりいん

まうりまゆり城墻ハもとれこ

らし人良も城まれさうりいん

まゆりいん

こよ代つてあれし一筆よ鳴鶴の

まゆりいん

鳥 日路朝飛急 日の中よとる

のこすあり陽の精とらり

いよそとらりしり端いばり

のけし物いとひしありり

白首何年改 燕太子丹秦に

慕られて来ふよゆらんを

よ鳥の双り白ありるよ角れせん

母ちよほて歎くよ歎くよ鳥こ

けり地ようて歎くよ角れい

ふり馬まけり秦王魯ふて

あつりりされぬ

あ跡とつてとてやう

あうさよのつり色あうり

鶴 危巢畏風急 風

あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ

秋随織女ヨシノ 七月七日の夜に

あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ

あつし事ささけりあよ梅よよ
あつし事ささけりあよ梅よよ

宿 春輝満朔方 帰鴈發衡陽

あつし事ささけりあよ梅よよ

いしとあふ秋の月よ言はふあふ
て寒と送り春の暖氣はゆき
て昂北よ海り朝方ハ北衛陽ハ南
也又云夜ハ沙とらて南にかけ
る沙とらけてハ北ハ海り又晨鳥臺
候 鷹 銜 蘆 ともりり

うらさとのまろりかにかた
らこの北やま川りすむん

寄語 能 鳴 伴 萩 子 氏 寄 書

いしとあふ秋の月よ言はふあふ
て寒と送り春の暖氣はゆき
て昂北よ海り朝方ハ北衛陽ハ南
也又云夜ハ沙とらて南にかけ
る沙とらけてハ北ハ海り又晨鳥臺
候 鷹 銜 蘆 ともりり
うらさとのまろりかにかた
らこの北やま川りすむん

の本いよくちを切てゆめつと不
切又家の二れうりいよくちをいけ
てうくちうちをいけうりいよくち
とちうりれよかちうちうちとちうち
れぬとせうちをいけちうちうち
申のためいよくちとちうちうち
ねらわさちうちうちよちうちうち
うちをいけちうちうちうちうち

鳥 魁沓ケイ 睢陽溪スイヤウ 魁沓ケイ 鳥トリ

とちうちうちうち王睢陽の國れ申
あて鳥沓の地とちうちうちうち
りうり鳥沓の地とちうちうちうち
いれよちうちうちうちうちうち
ふれよちうちとちうちうちうち

王ケウ 喬キョウ 留リウ 来ライ 葉縣の令王ケウ 喬キョウ 後ゴ

漢れんて神術あり葉縣よりや
 一まうりほりしよじもあへく
 海もあへくたけつ所の島の
 一もあへくみよりまうりけり大史
 一して是さうわう一じ網を張
 てよりよ二のあもあうて一雙の
 くのあうりぬ
 一まうりのあもあうりあうりあ
 うりあうりあうりあうりあうり

鶯 發會分析柳吹 簫ハ折柳乃

曲あり又為梅り田あり言のあこ
 ねよのあうりあうりあうりあうり
 一まうりあうりあうりあうり
 一まうりあうりあうりあうりあうり
 一まうりあうりあうりあうりあうり

遷トカキニ喬チカフ若可冥 幽谷響還通

黃鸝ひとりともと来ひ一息谷よ

こゝ出て喬チ本よりけりし

鶯のそらふようはゆりあすり

若のよす急れきりそこより

雉 白雉振朝聲ツ 飛來麦天平ツ

白雉ニゆれと別ニ下ニ大平ニ固ニ

武王の代遊ニ白雉ニゆてニはるニ是ニ

平ニをニけニつニまニとニまニりニさニんニれニきニ

十歩よ一歩啄ニきニりニあニゆニみニよ

いとらひ飲ニとニらニり

ゆニのニ色ニのニうニみニあニさニらニりニまニれニよ

のとけふみよれあといちりふこ

楚郊チカウ疑風出チカ 楚人小雉チカといひ

てらとゆく行客チカといふと曰楚人

りつらつとあつとさうとさう行客久
とん実きとも未だ敵よひ鳥と楚
王よよんとさうり別十金とさう
この鳥とさうひさうのひさうさう
ふ一かたを結てさうさうさうぬ
客あさひのじさうさうさうさ
ささうさうの梅さうさうさう楚王
ふさうさうさうさうさうさうさ
子楚王い事とさう行てさうさうのあ
くれひて十倍の金と行つて
は并よわくさうさう代よあひにさう
多のさうさうのねよさうさうさ

鶯 楚他沐時雨 楚池はらふ秋也

冬陵山の上よ石鶯ありぬさう
と別とひさうねとさうとれさう

ぬとらう

三は風さとももわらふらん

色とりりえねよつとめきにうり

相賀チウキ離チ櫓側ラ 淮南子曰大虞成リキ

而鸞シ在相賀湯沐具而織メ風相弔ラ

我らもふしそさばれよみれに

新のつとめれよとされよけり

崔 入幕ス儀王祥 王祥ヨク母朱氏

よつとらうとらうと 誠の母れぬに思

了後母病よ成て黄らつ崔シ農あふ

りねとねふよ王祥求れと得

とらうとそと歎くに黄崔ね

十死て幕のうらよ入王祥是と

ま母よあつて病なまうりにうり

崔りらうそのらうらわさうらう

こゝろをこそよみたるありけり

朝遊連水傍コトハ 公治長島の語を

悟りたれりけりよとありて獄

のゆよいまゝありけりけり

崔の事と云ふてこの崔の戸

と云れりて云獄乃使さしと云

治長答て云ヒキすめ噴々曰ク自連水

の邊よト車翻レ而復ス糸栗ト枯テ牛の

角折テ涙ト侍ト往ト吟トと云

とら人のありはよりきり

とよふと云と云りありぬ

百詠和詞序六

祥獸部

龍	麟	象	馬	牛	豹
熊	鹿	羊	菟		

龍 竜は春分よ三よのあり秋分よ
 水よ入色く川ありを蛟龍とりひ
 翼ありを應龍とりよはのありと

蟠龍と云いまこののりうと蟠
龍と云い

衙燭耀幽都 幽都少_レ有日月
の光り乃_レ是_レ幽都の光り龍と
は_レ幽都の光り照せりうとこれあ
らうふくふと龍の出入よ
なり又云龍目をひくくと龍を
は_レ一月の光り照せりうとせり

か_レとて_レこ_レみ_レら_レり_レれ_レと_レひ_レひ_レ
この_レこ_レも_レも_レは_レと_レあ_レれ
含章擬鳳雛 徐直云諸葛亮卧
龍_レり龍士元鳳雛_レり又鳳_レ
五彩_レり齊龍章_レり_レけ_レに
新又鳳彩_レり_レと_レり_レ世_レ説_レ云_レ陰
雲十五歳の時_レ鳳_レを_レと_レい_レつ
これ見_レい_レる_レ龍_レ駒_レり_レと_レい_レふ

に風雛多る一しりふおハ新章風
姿多る多るとりりり

いふとりの新末とさきくみりしる
新田のあくろき并んぬるよ

麟 牡と麟とりし牝と麟とりし又云
歳星散為麟又云麟馬足黄色圓
蹄角端有皮又云麒麟圖ハ則日

月蝕と又云腐り多牛の尾一の角
五蹄あり又云麒麟ハ仁獸也王者
仁あれん世よい川又云毛虫三百
六十麒麟と長とす又云麟鳳鳥
龍らんと四靈と云又云含仁懷
義ありふよと云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云

成角ツ喻莫ツ戈ツ 文とまらふ物
牛の毛れらるるれらも過ぎ長
口り也ハ麟角ハのしとととらり

まらふもあらてふまらふとの事
つりくむしりよふとくんのりりハ

エカイテカクナツ
畫像臨仙閣 後漢孔切臣凡八
将麒麟閣ハのりりよのりり
アととらり

劉 <small>リウ</small> 禹 <small>ウ</small>	吳 <small>ウ</small> 漢	賈 <small>カ</small> 復	耿 <small>ケイ</small> 弇 <small>エン</small>	冠 <small>クワン</small> 恂
冷 <small>レイ</small> 歎 <small>タン</small>	馮 <small>フ</small> 異	朱 <small>シュ</small> 祐	蔡 <small>サイ</small> 遵 <small>ジュン</small>	景 <small>ケイ</small> 丹
蓋 <small>カイ</small> 延	欽 <small>キン</small> 期	耿 <small>ケイ</small> 純	臧 <small>サウ</small> 宮	馬 <small>マ</small> 武
劉 <small>リウ</small> 陰	馬 <small>マ</small> 成	王 <small>ワン</small> 梁	陳 <small>チン</small> 俊	杜 <small>ト</small> 茂
傅 <small>フ</small> 俊	堅 <small>ケン</small> 鐔	王 <small>ワン</small> 霸	任 <small>ジン</small> 先	李 <small>リ</small> 忠
萬 <small>マン</small> 修	邳 <small>ポ</small> 彤	劉 <small>リウ</small> 植	己 <small>キ</small> 上 <small>シヤウ</small> 八 <small>ハチ</small> 将	
王 <small>ワン</small> 常	李 <small>リ</small> 通	竇 <small>ソウ</small> 融	卓 <small>チャク</small> 茂	

以ヒ回クワイ将シヤウとくりにて凡ニ二人也

又麒麟図の功臣

霍光 張安世 趙奉國 魏相

丙吉 杜延年 劉德 蕭望之

竊武 己上十人

又云五下乃秘書麟図はあこびと
しり麟臺ともしり

あうりーいんをふりりーの
ふげとふーいまの月よるうらな

象 萬推方演夢 會秘乃張茂差

よ大象とらり萬推とこして云象

歎也い字のしゑいさり汝郡

きよらりーと云り張茂う云象

有牙業とふこのゆふーと

おてよとしり則吳興大寺よる

つぬ後よ王敦うとめよさるされぬ

夢の海うつさし祢の夢とらんうら
きとら風のかとらうーしきあり

惠子正ニ焚書ニ 象雌雄ありとれ

めとめりとはと百余日返土と才に
ありといとらほとの中さうじと
くし守あり人具あるを何よ候と候て懸
しめり取あり物ーとさう傳物とよ
んくあり首在子女よをくれらう

何魚子市存ニうれしきる色あり

箕路ニしてほととさうけてうたみ

あよこれとさう一か存子のいつく人
らーりてとめりよ行らうすもととせ
るーもとめららるーもとと氣あり
芭芳れありひこよさうーりりて度し
て氣あり氣度しと取あり取
度しとせありと又度しと之ニ

死られあひともい春秋を夏に何よ
何といけり莊子亦十八のんこりり
莊子のうらつたてんこる象れこ
とあり又莊子女をそつたてん象
ふのういこつたてんこらうこも
かあつたてんこつたてんこらうこ
そつたてんこつたてんこらうこ
とやうんとつたてんこらうこ
こつたてんこつたてんこらうこ
こつたてんこつたてんこらうこ

馬 天馬來ト從リ東 漢武帝代大宛
胡得千里馬と云よ天馬のつ
つらつらつら具詞云天馬來号從

東道とたり

吾妻路の閑れみ里とてうらやま
なごよこゆのみとらめり

蒼龍遙逐日 紫鸞迫追風

蒼龍紫鸞逐日追風とみに馬れ
名しこまゆり日をひ風をまよ
ゆるみこまゆり人をほこまゆり
とまゆりまゆりまゆり

つらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
いとゆらゆらゆらゆらゆらゆら

牛 高詠初入相 寧殿奇の國よ

ゆらゆら桓るゆらゆらゆらゆら
寧殿牛と車下ふらふ自角とた
きてきて云南山奈白石爛せれ
て不逢克与舜禪短布草衣純至野

長夜縵々何時且とゞり桓公
れとて賢とほめて相とす

あゝれあゝの代よあゝの方れ夜を

うーとゞひてもひるうま

不降五丁士 如何九折通

秦の意の蜀の意とらんらん

あゝるよらんとして人のあゝらん

さういよあゝらんらんらんらん

してるらんを絶つてらんらん

をいそしむらんらんらんらん

よとらんらんらんらんらんらん

の人は牛とてる牛とらんらん

らんらんらんらんらんらんらん

あゝらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんらんらん

の相張物をつりて右牛乃迄
をさして蜀のあまをうらゐて多り
くうろく山海いえれぬ彦早の
うはりそくうらうけとんうりて

豹 奈加沫加み
タチカミ

虎豹、鞞ハと犬羊の
鞞のともとりりたくとく虎豹
犬羊とのうらくもの色一つはあ

虎とをもとあつりよそつれと
りれいゆきれども紙犬羊
よらうらうととりうら鞞つく
つらうらうら

たまふろよあるこの葉れうらう
うらう割候といつり

若今逢露雨 長隱ホトリス高山ホトリス幽
陶谷子三年のうらにかりといと

とさうしうそよ書こらひぬら
なしてあひらきしりうとあ
かさいいりてこれとらうら
よ書きて云うそれ知あくし
つさいあらしし嬰害とらひ切あ
しととりのとん積殃と云昔也
乃令甲亥まといしして國いと
めりしうの福も縁よつさふ後代

ふあういれし今養子知うく切な
くしととらさうらう後害を
かつりんうらうり就さく南し小
玄豹あうせ日る雨さうよ隠そ
そのう衣もつちかねんをさか
しそあてくひぬを求る心忘れ
たりけぬよ害とのうたふ疑¹よ
しうりていひとよくひぬとら

あつちのよみあつちの書いよめつちの
これ別茶よは徳ううこのあよ
くといふまよはすよ書よあひぬ
いふつちのあよあひつちのあよ
あといふつちのあよあひつちの

熊 末巻別館 春心 西京賦云離宮別
館凡六所あり漢武帝元鼎三年の

春射熊館よとゆこーのり

棒らんらりりすうよんらさやよ
のつちのつちのつちのつちの

從真飲清泉 黃帝炎帝と改泉
よらつちのつちのつちのつちの

せり

ことつちのつちのつちのつちの
いりつちのつちのつちのつちの

鹿

祭花^ニ用舊宛

西國ニ祭花麻

ありふと^ニりよいらさしむれぬ麻
 よわういとむれよ五百はへる麻
 王よも^ニ國つよはうして曰^ク一
 月よかかくのちとを殺路つ麻つ
 りり後よ^ニは^ニん^ニより^ニ日と
 よ^ニう^ニり^ニ麻と^ニは^ニく^ニ國王のため
 とわさ^ニり^ニち^ニと^ニは^ニてありれ

ち^ニ又^ニち^ニく^ニ余の^ニん^ニと^ニと
 悦と^ニり^ニと^ニり^ニ國王は^ニよ^ニ
 路路ぬ^ニ日^ニよ^ニう^ニよ^ニ
 けり^ニあ^ニく^ニは^ニく^ニ日^ニ殺と^ニ絶^ニ行^ニよ
 ら^ニり^ニち^ニあ^ニり^ニ具^ニ日^ニよ^ニあ^ニり^ニ
 麻王の^ニもと^ニよ^ニ行^ニて^ニち^ニと^ニれ^ニん^ニ
 めり^ニち^ニと^ニり^ニて^ニと^ニれ^ニん^ニよ^ニあ
 た^ニり^ニ余^ニと^ニり^ニむ^ニれ^ニよ^ニよ^ニれ^ニよ

この後その帝のりて次の日ふ
あされんちいさじいじく人給
つと福人しうよ款としんも麻王
命を惜むつふらむすう次の
日よあらしんちいさじいしと
かして養く麻王のりあむとひ
付つめつあかじいり麻王に約
てり麻王のりあむつあむら

あつひあむらむらむらむら
いさじいりりりり麻王あむら
を信ちむらむらむらむら
んらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむら

の色々らまをせうらるゝに何れ
あやしむ回縁は麻をほくま
い華とのりつよき限命と思て
初は是取の人されともほ麻をう
ぬの形に麻をれたほ二人あうと茶
てまふようちうしあうとされい
けいしとさめられぬ
えいしうりあうしとめあつれう

あをかりしあうれありのいのりしと

お懐六丈志 アキテ 抗平別心期

子言と云人道へ行 道の辛奈忍
り客部文節と云よまをり子言
魯のあふこといゆり付人うられ
とめいし文節と云しをくろも
三宿文節と云と流と子言平しと
あひて是と謝と子言うん人され

てるにまはるは是麻衣也而常郡聚其
こましうりまふれぬらうらうりの
わらぬらうらうらぬらうらうら

羊 跪飲徳洗俗 じうーらまの母

れらとのひとたうらうらうらうら
に礼ふらうらうら 法孰云羊る
跪乳と礼鶏有識時之候鴈有

庠序之儀人礼法也

らうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうら

仙人擁石去 初年ハ仙術

うらうらうらうらうらうらうら
羊をうらうらめて金花山の石の
はわらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら

よしの草よわると蒼切てらるふ
白さ石のこころを初平の石のみ
わうとよひ何よ初平の草と
よみ石とくくうらて草と
白けりいんしーの草を羊
躑躅と云羊しーとんて伏
まうふぬるり躑躅いふまふ
とよむり玉文苗羊いともい
とよむり

はーこくまよわとろく心んそ
祿さすいんを身とろてけり

菟 目随槐葉長 槐之生也入^イ季^キ
春^{ハル}五日而菟の目十日而翬の耳
と云り

とろりゆらんみろりれえとろれろり

いづれもをしるころめらるるさめ
漢月澄秋色^ッ 月乃うらに玉乃
菟あり月乃陰乃精ありまゝ
よゝゝとらゆらあり
吹風よきりもろりもろりもろり
月乃うらさきも秋とらありん

百詠和歌上巻終

右一結禪侶生涯易暮疾物
自駒之過隙余命難保脆於電
光之宿露今生空過來世已近
毛鳴鳥鐘之全鏡驚妄想之
昏仰鵝王之威力期覺悟之
曉乃至余薰及法界

